



小学校でも やっています！



横浜市立東本郷小学校
ふじ いしょういちろう
藤井翔一郎

児童が自身の成長を実感できる 授業改善への挑戦（5年生）

本校では、令和6年度から教科書がHWGに変わったことをきっかけに、ラウンドシステムを活用した授業展開を行っています。

4年生まで聞くこと・話すことを中心に外国語活動を経験してきた子どもたちの実態を踏まえ、5年生では、Unit 3まで①ストーリーを聞いて概要をつかむ ②場面ごとの内容を理解した上で自分自身について表現する ③再び教科書に戻り②で伝えた言葉への気づきを深める、という授業を展開することとしました。教科書を何回も行ったり来たりして授業を進めていくことで、子どもたちは理解したことを自分に落とし込む時間が取れたり、学習に安心して取り組むことができたりしています。

■ラウンド1…ストーリーの概要理解

実際にUnit 1のストーリーを聞いて、大まかな内容が理解できると、子どもから「続きが気になるから先も聞きたい」という言葉が自然と生まれ、Unit 2へとつながります。子どもの思いが聞くことに生き、話の概要をつかんだり表現に触れたりすることができました。

■ラウンド2…登場人物の話を聞き、“自分だったら”を考えてみる活動

表現に何度も触れるうちに自然と子どもたちから“自分だったら”が生まれて、言語活動へのスムーズな展開へとつながりました。教科書を何度も聞く経験を通して、気付いたら言えるようになっていたと報告してくれた子もいました。子どもが自分の成長を実感し自信を持つ姿を見ることができました。

■ラウンド3…ラウンド2で伝えた言葉への更なる気づき

ラウンド2で自分のことを伝えたからこそ、もう一度教科書に戻り言葉への気づきを深め、You can do it!での言語活動へとつないでいきます。

ラウンドシステムを活用した授業を行うことで、言葉の学びが、子どもの「～したい」を大切にしたい学びへとつながってきている実感を得ることができています。さらに子どもが安心して学習に向かう土台が築かれ、楽しみながら言語活動に取り組む中で自分自身の成長に気付く機会を持つようになってきました。これからも子どもたちと一緒に楽しみながら、無理のない思考の流れで学習を進めていきたいと思っています。



※詳しい年間指導計画は
QRコードから
ご覧いただけます。



横浜市立市場小学校
ふかのみずえ
深野瑞恵

聞く楽しさから伝える喜びへ ～小学校ラウンドシステムのカリキュラム作成～

小学校英語が教科化された令和2年度は、学級全体での教師と子どものやり取り中心の授業をすることで、子どもたちは英語を聞くことを楽しむようになりました。一方で、子ども自身が話すときになると、英語をどう使って自分の考えや気持ちを伝えるのかに悩む姿が見られていました。

「無理矢理覚えさせて話させるのではなく、英語を自分の言葉として使って伝える楽しさを感じさせてあげたい。」

そんなとき、中学校の5ラウンドシステムでの生徒の姿が浮かびました。そこで、西村秀之先生からもご指導いただきながら、中学校の5ラウンドをもとに、小学校の外国語科のねらいや留意点、授業時数を踏まえた小学校ラウンドシステムのカリキュラムを作成しました。

本校では、子どもの実態に合わせ、前期はUnit 1～4、後期はUnit 5～8と分けて授業を行なっています。ラウンド1では全体でストーリーを聞いたたり、ストーリーをもとにやり取りをしたりして内容を推測します。ラウンド2では、全体または個人でストーリーを聞き、なりきりリスニングやなりきりスピーキングをしながら内容を理解します。また、登場人物と自分の考えを比べたり、登場人物と同じ場面にいたら何を話したいかを考えたりすることで、少しずつ自分のことを伝えられるようにします。ラウンド3では、登場人物が話していたことを参考にしながら、やり取りや発表などで、自分の伝えたいことを自分の言葉で表現します。ラウンド4では、これまで音声で聞いたり話したりしてきたことについて文字で読んだり、読んだ例文を参考にしながら自分が伝えたいことを書いたりします。

ラウンドシステム導入後の子どもたちの姿として、それまで以上にストーリーの内容を楽しみ、登場人物がクラスメイトかのように親しみを持っています。5年生の学習で知った登場人物についての情報を、6年生の授業で話す姿も見られています。また、英語を使って話すことを楽しみ、メモなどを用意することなく、自分が伝えたいことを楽しそうにやり取りをしたり発表し合ったりする様子が多く見られています。

5年生
年間指導計画



6年生
年間指導計画



市場小ラウンド
システムについて



※詳しい年間指導計画は
QRコードから
ご覧いただけます。